

未来へつなごう 常南のこころ

常磐南学区

TOKIWAMINAMI



酒井 美結さん
(平成27年度 小学6年生・若草)

未来の岡崎は、どんな人にも優しく声をかけ合える、明るくて元気な街にしたいです。困っている人がいたら、積極的に助けてあげられるようにしたいと思います。そのためには、まず挨拶。自分の住む地域で、きちんと大きな声で挨拶をして、地域を明るくしていきたいです。

佐藤 一馬さん
(子ども会会長・田口町)

いまは携帯やスマホの普及で人と人が直につながることが減っていますから、子どもから大人までコミュニケーションが豊かで活気に満ちたまちにしていきたいと思っています。皆が集い、触れ合える場として岡崎フェスを行って盛り上がっていきたいです。みんなでLove&Peace!!

浅井 駿吾くん
(平成27年度 中学2年生・大井野町)

自然と共存でき、活気あふれるすてきな岡崎市にしたいです。岡崎市は伝統の祭りや行事も多くあり、人と人の関わりが多くあるまちだと感じています。自然ともうまく共生しています。この岡崎をPRする活動や行事に自分も積極的に参加していきます。

中嶋 源一郎さん
(田口町総代)

20年、30年前に我々が夢に描いていた常磐南の姿が、いま、現実になってきています。今後は地方がどんどん重要視される時代。岡崎市でも小学校区単位のまとまりが重視されるようになるでしょう。学区民の絆を深め、常磐南が一つになって将来へ向かっていくことが大切だと思います。

新世紀岡崎に伝えたいメッセージ



編集後記

㊦ 遠い遠い昔の奈良時代。行基が岩中町の岩谷観音を訪れたという伝説が残っています。はるか昔から人が住み、日々を紡ぎ続けてきた歴史の深さに感嘆しました。

㊦ 生糸をとる養蚕。特産の花崗岩を使った石工業。葉タバコ栽培。自然薯栽培。常南の人々が新しいことに挑戦して常南をつくってきたチャレンジ精神に感動しました。

㊦ 何十年も前から将来の常南の姿を見つめ、その実現に向けて努力する人々に出会いました。これからの発展には地域の絆が大事。やさしく温かい常南の人々にあらためて感謝しました。

〔作成委員会〕 深田政昭/小笠原正吾/土田修義/中嶋源一郎/柴田喜代春/酒井誠/山本信幸/井畑幸一/稲葉富士広/近藤正夫/河合正人/内藤 茂/(以下、協力者) 加藤康富/野村修/野村和一/野村康治

〔参考資料〕 郷土誌ときわみなみ(常磐南学区社会教育委員会編)/続おかざきのむかしばなし(岡崎の昔話編集委員会編)/常磐の石造物(近藤長作著) 〔表紙写真〕 校舎の前に常磐南小学校の全児童が集合(2015年11月撮影)



昭和30年代からの道路拡幅整備を経て、38年に行われた名鉄バス岩中線の開通式



かつて葉タバコの生産が盛んだった時期に使われていた乾燥小屋



雅楽クラブと和太鼓クラブは老人福祉施設の訪問演奏にも取り組んでいる



順調に造成工事が進められた「エコロタウンときわ南」



学区を上げての研究発表が高い評価を受けたE S D研究発表会



多くの方が、「ときなんポロシャツ」を着て参加した平成25年の運動会

常磐南のなりたち

一九〇七年 ■ 明治 40

一九一三年 ■ 大正 2

一九二八年 ■ 昭和 3

一九三二年 ■ 昭和 7

一九四一年 ■ 昭和 16

一九五五年 ■ 昭和 30

一九六六年 ■ 昭和 41

一九六八年 ■ 昭和 43

一九七一年 ■ 昭和 46

一九八二年 ■ 昭和 57

一九八三年 ■ 昭和 58

一九八五年 ■ 昭和 60

一九八九年 ■ 平成 1

一九九一年 ■ 平成 3

一九九二年 ■ 平成 4

二〇〇〇年 ■ 平成 12

二〇〇五年 ■ 平成 17

二〇〇七年 ■ 平成 19

二〇〇九年 ■ 平成 21

二〇一一年 ■ 平成 23

二〇一三年 ■ 平成 25

二〇一四年 ■ 平成 26

二〇一六年 ■ 平成 28

熊野神社の舞台を仮校舎として

常磐村立常磐尋常小学校が創立する

現在地に学校の新校舎が完成する

学区の箱柳が岡崎市に編入、

児童お別れの会が実施される

大雨により、川が氾濫して崖崩れが起こるなど大災害になる

小学校が常磐南国民学校と改称する

岡崎市との合併により、常磐村閉村式が行われる

小学校が岡崎市立常磐南小学校と改称する

箱柳から田口まで名鉄バス岩中線が開通する…1

昭和27年より始まっていた葉タバコ栽培の

作付面積が日本一になる…2

田口町にライスセンターができる

学区で電話の利用が開始される。それまでは村に電話交換台があり、村外からの電話は交換手が各家庭の有線電話へつないでいた

小学校で自然薯栽培(↓地図H)が始まる

学区の支援を受けて取り組んでいた学校林活動が全日本学校林コンクール「農林水産大臣賞」を受賞する

常磐南学区市民ホームが完工する

学区の上水道が完工する

小学校に雅楽クラブ(↓特集)が発足する

常磐南学区こどもの家が完工する

小学校の雅楽クラブと和太鼓クラブが

「岡崎市教育文化賞」を受賞する…3

「エコロタウンときわ南」(↓地図G)の

造成が始まる…4

常磐南小学校開校100周年の記念式典が行われる

岩谷観音御開帳(↓特集)(17年ごとに開帳されるが、もっとも最近がこの年。今回は平成38年)

新東名高速道路の岩中岩戸トンネルが完成する

E S D (持続可能な開発のための教育) 研究発表会が行われる…5

ときなんTシャツとときなんポロシャツが完成…6

学区民ふれあいハイキングで

工事中の新東名高速道路を歩く

小学校に東校舎(音楽室・図書室)が完工する

雅楽会の楽太鼓に明治30年代制作という銘が見つかり、萬福寺雅楽会はその頃から始まっていることがわかりました

昭和30年代に学区内で大開墾事業が行われました。一方で、市のし尿処理やごみの焼却灰の埋め立てなどを積極的に受け入れ、そのために道路が整備されて交通の便が整いました

「エコロタウンときわ南」は、小学校の児童数が減少して学区の存続を危ぶんだ学区の方が誘致したもので、平成21年度の造成工事終了後、住宅が増えたことで平成28年度には児童数が100名を超えました

太平洋戦争で学区内の木々が燃料として使われたため、終戦時には木がほとんどなくなりました。現在の豊かな森林は、その後の学区の方々の植林によるものです



常磐南の町名の由来

常磐南は田口町、板田町、岩中町、大井野町の4町。田口、板田という地名は大昔から使われており、中世の田口には田口城がありました。岩中町の地名は、明治11年(1878)に岩谷村と中畑村が合併して誕生した岩中村から。大井野町は、耕地に水を引くための土地を指す「意野」が由来だといわれています。

常磐南の農業

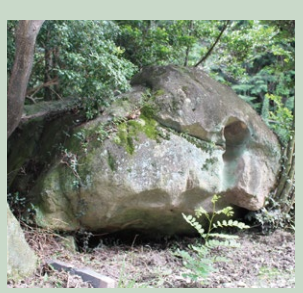
養蚕が普及した明治から昭和の初めにかけて、農地の多くが桑畑だった常磐南。その後は田口町を中心に葉タバコ栽培が始まり、昭和43年(1968)には日本一の葉タバコ生産地。栽培は昭和50年まで続きました。現在は「常南自然じょ生産組合」による自然薯(↓地図H)の栽培が盛んで、御歳暮用などの人気特産品となっています。

常磐南の工業

かつての大井野川には水利を生かしたガラ紡工場がありました。また、花崗石の産地としても有名で、最盛期には大井野町の住民の約8割が石工業を営んでいたといえます。現在は機械化と大型化が進み、学区内の石工場は7軒(↓地図コラム)。ほかに自動車関連業や建設業など、さまざまな工場が稼働しています。

COLUMN 常磐南の昔ばなし 田口町のてんぐ岩

昔むかし、山に囲まれた田口の村で村人たちがせっせと働いていました。木を切り倒し、土をならして、山のてっぺんまで道をつくろうというのです。ところがある日のこと。道の真ん中に巨大な岩があり、全員で動かそうとしてもびくともしませんでした。そのとき突然現れたのが一人のてんぐ。「ヤーツ」という掛け声とともに、その大岩を山の上に投げてしまったとか。「わしらが一生懸命に働いたつたで、てんぐさまが助けてくださった」それからというもの、てんぐの手の跡が残されている大岩は「てんぐ岩」と呼ばれるようになりましたとさ。



てんぐの手の跡が残るてんぐ岩。いまは「エコロタウンときわ南」から北へ行く道沿いにある

DATA



□人 □ 1,377人
男性 671人
女性 706人
□世帯数 445世帯
□面積 9.62km²
[2016年7月1日現在]

未来へつなげたい！

常磐南のすてき

未来へつなげたい！

17年ごとの岩谷観音御開帳

岩中町の岩谷観音（↓地図A）には、奈良時代の僧である行基がこの地に立ち寄った際に彫ったと伝えられる聖観音菩薩像が安置されています。この聖観音像は秘仏とされており、御開帳が行われるのは17年に一度。地域をあげてのとても大きなお祭りになります。



△平成21年に行われた御開帳



△平成4年に行われた御開帳の様子

未来へつなげたい！

石屋の弘法様

県道335号の落合橋のすぐ上流、県道の南の小高いところに小さなお堂が建っており、中には石で彫られた高さ90cmほどの弘法様が祀られています。この弘法様は、明治の末頃に花崗岩の産地である大井野の石屋が中心になって彫り上げたもの。強い霊気を漂わせる石であるといわれています。



昭和9年に現在地に移された弘法様。かつては現在地より上流に祀られていた

未来へつなげたい！

萬福寺雅楽会の楽人さん



楽人さんの中に子どもたちも加わって共演

明治30年代から続いている萬福寺（↓地図E）雅楽会。いろいろな地域の神事や祭礼、法要などに呼ばれることもあり、地域の方が月に一度集まって練習を積んでいます。一時は存続が危ぶまれましたが、常磐南小学校に雅楽クラブが誕生したことで活動が活性化。いまでは常南小雅楽クラブの卒業生も活動に参加しています（↓年表3）。

未来へつなげたい！

里に広がる

稲田の風景

美しい稲田が広がっている田口町と板田町。常磐南小学校の学校田もその中にあり、5月上旬には全校児童で田植えを行います（↓地図コラム）。収穫したお米は、校内で採れた自然薯と合わせてとろろご飯に。収穫感謝の会で学区の人にもふるまっています。

点する家々と、それを見下ろす熊野神社や白山神社。すべてが調和した美しさ



未来へつなげたい！

みんなの笑顔



毎年秋に行なっている収穫感謝の会

常磐南学区では小さな子どもからお年寄りまでが笑顔で挨拶を交わしています。地域の人に先生になっていただいて学区のことを深く学ぶ学習や敬老会など、小学生とお年寄りの方が交流できる機会も多く、いろいろな行事を通して地域の人みんなが笑顔でつながっています。



地域の敬老会と子どもたちの交流

常南への思いを詩に託して

よかったなあ 常南が
良い人ばかりいてくれて
みんな仲良し
優しい人ばかりでいてくれて
よかったなあ 常南が
自然いっぱいできてくれて
たくさん虫や動物
花や木たちが
いろんな場所にいてくれて
よかったなあ 常南で
常南小オリジナルのいろんな行事
ここにしかないことが
いろいろできて
（平成27年度小学4年生 中山幸音さん）



△野鳥の会の方と一緒に野鳥観察

△地域の人との道路歩行訓練

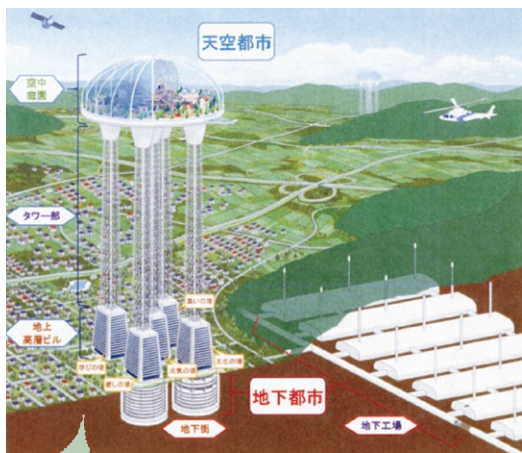
▷小学校での自然薯栽培

※この詩は、国語の授業でまど・みちおさんの詩「よかったなあ」を学び、常南バージョンにリメイクして生まれました

常南のすてきを未来へつなげるために

常南小の児童が考えた
天空都市と地下都市

この想像図は、平成26年の土木学会100周年記念事業「未来のT&Iコンテスト」で、全国の中から選ばれた常磐南小学校の児童のアイデアを具体化したもの。大学教授や設計士がチームを組み、実際にこの地域を訪れて調査を行ったうえでつくられました。



工場や会社などの施設を天空や地下に移し、地上は自然を残して人が住む空間に。常南の自然や環境を守りたいと思って考えました（平成26年度小学6年生 近藤泰暉くん）

天空都市は空中庭園など非日常な憩いの空間、地下都市は地下街と地下工場の大規模な空間に（画像出典：日本土木学会）

総代会長・深田政昭氏が語る

未来へつなぎたい
学区の「お宝」

常磐南は何代にもわたる素晴らしい先人たちが歴史や文化、伝統、慣習などをつくりあげ、引き継いでくれたおかげで温かい人情や人の絆が育まれてきました。

学区の「お宝」は、常磐南にこれからも残していきたい大事なものを受け継ぎ、さらに育てていく元気印の「常南っ子」たち。そして子どもたちを温かく見守る常磐南小学校です。そのための土壌をつくっていくことが我々の使命であり、責務だと思っています。

